

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

市民経済部環境課

市民経済部長 滝本 均

| 整理No.  | 事務事業名     | 3か年<br>実施<br>計画 | 事業の評価・課題 |  | 今後の事業の方向性 |   |
|--------|-----------|-----------------|----------|--|-----------|---|
|        |           |                 | 自己<br>評価 | 評価内容   | 方向性       | 内容  |
| 13-001 | 環境学習事業    | なし              | B        | 保育園向けの環境出前講座や親子昆虫観察ツアー(博物館との連携事業)を創設したり、イベント(自然体験・観察会等)の対象年齢を小学生以上から5歳以上に引き下げたことにより、環境学習イベント参加人数は713人増となった。環境ボランティア養成講座については、環境学習イベントに重点を置いて事業を行ったため、実施しなかった。  | 改善<br>推進  | 環境学習については、参加人数において平成30年度実績の維持を目標とし、更なる内容の充実と参加者の満足度の向上を目指す。<br>環境学習ボランティアについては、登録者が活躍できる場を広げていくことが課題であり、環境学習指導者に繋がる仕組み作りについて考えていく。  |
| 13-002 | 地球温暖化対策事業 | なし              | C        | 家庭で取り組みやすい地球温暖化防止対策として、「緑のカーテン」の推奨を継続して行った。「初心者のための緑のカーテン育て方講座」では、半田農業高校の協力で内容の充実が図られ、緑のカーテンに取り組む新たな世帯を増やすことができた。この講座の開設により、「緑のカーテンコンテスト」には、昨年度を上回る作品の応募があった。また、ローカルエコアクション事業では、市民の地球環境への意識を向上させるため、エコファミリーへ情報配信を積極的に行う一方、環境保全ポスターコンテスト事業では、優秀作品の表彰を行った。この他、「はんだエコアクション2019」の目標達成に向けて、平成29年度に実施した職員ワークショップの意見を活用し、職員の意識改革に努めた。 | 改善<br>推進  | 市役所内でも、「はんだエコアクション2019」の推進に積極的に取り組んでいるものの、思うような成果が得られないため、引き続き、目標の達成に向けて行動する。「はんだエコアクション2019」は、令和元年度までの計画であり、職員にとってより積極的に取り組める新計画を策定する。   |
| 13-003 | 狂犬病予防事業   | なし              | C        | 狂犬病予防の集合注射を市内各所において実施するとともに、畜犬台帳の適正化を図った。平成30年度は、ペットショップが登録飼主となっている状態の犬の現状調査と、平成29年度に引き続き、転出不明犬の調査を実施した。その結果、狂犬病予防注射接種率は平成29年度と比べ微増したが、目標達成には至らなかった。今後はより一層の飼い主への注射接種の周知と台帳の精査による適正化を図っていく必要がある。   | 改善<br>推進  | 予防接種をしていない犬の飼い主に対しては、広報への掲載回数を増やす等の啓発活動を強化する。また、畜犬台帳の適正化を図るため、高齢犬や転出犬などの登録状況の精査を引き続き進める。  |
| 13-004 | 墓地管理事業    | なし              | C        | 市営墓地約18,000区画のうち、使用者不明の区画について、昨年度に引き続き置手紙を実施し、承継及び返還を促した。年度当初に約4,400区画あった使用者不明区画のうち、北部墓地の1,208区画に置手紙を実施し、787区画の使用者確認を完了することができた。<br>なお、無縁改葬手続については、使用者確認に重点を置いたため未実施となったが、今後は、使用者確認の進捗状況を考慮しながら順次実施する。   | 改善<br>推進  | 北谷及び北部墓地で行った置手紙が、使用者不明区画の解消に効果的であったため、今後は北部墓地の未確認区画や黒石墓地などでも同様に置手紙を実施し、引き続き区画使用者の把握に努める。<br>また、令和2年度の墓地管理計画の策定に向けて、今後の墓地のあり方についての参考とするため、令和元年度に市民へのアンケートを行うとともに、他自治体の事例などを研究する。 |
| 13-005 | 墓地整備事業    | あり              | B        | 北部墓地の通路整備については、お盆前に階段通路を整備することで、更なる墓参者の安全確保と利便性を向上させることができた。   | 合理<br>化   | 今後の墓地施設整備については、令和元年度新設の墓地施設快適化推進事業に統合し、中長期的な整備から早期整備への転換を図ることで、墓地利用者の更なる利便性の向上を図る。  |

| 整理No.  | 事務事業名  | 3か年<br>実施<br>計画 | 事業の評価・課題 |   | 今後の事業の方向性 |  |
|--------|--|-----------------|----------|---|-----------|--|
|        |  |                 | 自己<br>評価 | 評価内容  | 方向性       | 内容   |
| 13-008 | 環境保全事業   | なし              | C        | <p>大気の常時監視や公共水域の水質検査等により、市内の生活環境が概ね良好であることが確認できた。矢勝川の水質が悪い要因の一つが、周辺の畜産農家からの汚濁成分の流入であることが確認できたが、元々の水量が少ないことや、公共下水道未接続の家庭や合併浄化槽未整備の家庭からの排水、長年蓄積したヘドロ等、複合的な要因も考えられ、水質改善のための課題は多い。</p> <p>環境保全協定を締結している39事業所の内10事業所に立入調査を行い、環境保全計画に沿った排水や排気、騒音などの自主測定の実施状況の確認などを行い、事業者が協定に従って環境保全に努めていることを確認した。</p> <p>また、市民・事業者・行政及び有識者で組織するはんだ環境パートナーシップ会議を行い、半田市環境基本計画に関する評価・提案書を取りまとめた。関係各課へは委員の提案を今後の事業に反映させるよう依頼した。</p> | 改善<br>推進  | <p>大気・水質等が環境基準を満たし、良好な生活環境が維持されているかどうか確認するため、引き続き監視を行う。基準を満たしていない場合は、原因を探り、改善が図られるよう関係各所に働きかけを行う。また、市内の既存の大規模事業者に対しては、経済課企業立地担当とも連携し、環境保全協定の締結を促す。</p> <p>はんだ環境パートナーシップ会議からの提案については、次期半田市環境基本計画に反映させたいと考えており、提案を実現させるための各種取組みを行っていく。</p> |
| 13-009 | 畜産臭気監視事業   | あり              | B        | <p>季節による畜産臭気の違いを把握するため、住宅地から1km以内の畜産施設において年3回の臭気測定を実施した。測定を行った全畜産農家に対して臭気指数を記載した通知を送り、市の基準を達成するよう促した。この結果、全ての施設において市の基準である臭気指数15以下を達成することができた。</p> <p>また、大同大学との共同研究では、乾燥施設に糞尿を投入するときに含水率を85%以下にすることが、臭気の低減に最も有効であることが確認できた。</p>   | 改善<br>推進  | <p>臭気指数測定時には、全ての施設で15以下を達成できたが、臭気に関する市民の関心は高く、引き続き畜産農家に対して臭気低減の指導を行っていく。</p> <p>今後は、共同研究により得られた知見を基に、乾燥施設への糞尿投入時の含水率を調整することに焦点を絞り、経済課と連携して畜産農家への指導を行う。また、共同研究で作成した畜産臭気低減マニュアルと、同じく共同研究で開発した簡易臭気測定器を活用し、畜産臭気低減に取り組む。</p>                  |
| 13-013 | 墓地環境改善推進事業   | あり              | A        | <p>北部墓地のトイレについては、お盆前に建替えを完了した。汲み取り式トイレから車いすでも利用できる広い水洗トイレに建替えたことで、墓参者から「清潔で快適に利用できてありがたい」という声が届くなど好評を得ており、利便性を向上させることができた。</p> <p>また、側溝清掃については、北部及び北谷墓地の通路側溝に堆積した土砂等を浚渫し、排水機能を高めることができた。過去に区画から撤去され、市営墓地敷地内に放置されていた無縁墓石を処分し(北部墓地で776基、有脇・成岩及び黒石墓地で411基)、墓地の環境改善を図った。</p>  | 合理<br>化   | <p>今後の墓地施設整備については、事業名を令和元年度新設の墓地施設最適化推進事業に改める。中長期的な整備から早期整備への転換を図ることで、墓地利用者の更なる利便性の向上を図る。</p>  |
| 課等長    | <p><b>1次評価(30年度の総括評価)</b></p> <p>一部項目に課題はあるものの、全体的に目標達成に向け、徐々に進捗していると思われる。</p> <p>特に、本市の長年の課題である畜産臭気監視事業では、平成26年度からの大同大学との共同研究の総仕上げとして、臭気問題解決を目指し取り組んだ。その結果として、臭気測定結果をリアルタイムで確認できる簡易測定器を開発し、また乾燥施設投入時のふん尿の含水率の調整が臭気低減に最も有効であることを確認した。さらに共同研究で得られた知見をもとに、市と大同大学が共同で臭気低減マニュアルを作成した。</p> <p>墓地環境改善・整備事業では、墓地を適正に運営するため、使用者不明区画の解消、無縁墓石の撤去、トイレの設置や側溝の清掃など、墓参者が快適に使用できる墓地の環境整備を促進した。</p> <p>狂犬病予防事業では、注射接種率の目標が90%、実績は85.4%となり、目標は達成できていない。これは、犬の登録が抹消されず残ったままとなることで、接種率が上げ止まることが理由の一つと思われる。</p> <p>環境学習事業における参加者は、新規イベントの創設やPR強化に努めた結果、目標値1,100人に対し、1,509人の参加を得た。</p> <p>地球温暖化対策事業では、「はんだエコアクション2019」のもと、平成25年度を基準年度として、温室効果ガス排出量を4%以上削減、コピー用紙使用枚数を5%以上削減することを目標に取り組みを推進したが、平成30年度における温室効果ガス排出量は基準年度比で0.9%削減、コピー用紙使用枚数は基準年度比5.3%増加し、目標は達成できていない。</p> |                 |          |   |           |  |
| 部等長    | <p><b>2次評価(30年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)</b></p> <p>平成30年度の各事務事業の目標は、おおむね達成されているが、地球温暖化対策事業で市役所庁舎の電力使用量の削減目標、無縁改葬告示の実施目標、環境保全事業の河川BOD基準達成目標などは未達成である。これらの事業については、事業内容の精査など、その原因究明を至急行い、新年度における事業に反映させること。</p> <p>畜産臭気監視事業においては、平成25年度から大同大学に委託し、臭気物質の特定、消臭資材の効果確認、簡易臭気測定器の開発、乾燥施設における臭気発生メカニズムと低減方法などを研究してもらってきた。最終年度となった平成30年度にはこれらの研究成果を踏まえた「畜産臭気低減マニュアル」を作成し、市内畜産農家を集めて説明会を開くことができ、臭気対策の目処が立った。新年度においても、事業所及び住宅地の臭気監視を続けるとともに、経済課の畜産環境対策補助金を活用するなど同課と連携のうえ、処理の適正化を指導すること。</p> <p>墓地管理事業においては、使用者不明区画の確認調査に成果を上げており、新年度においても同様に推進し、その早期解消を図るとともに、無縁墓地の発生予防も考慮した墓地管理計画の策定を進めること。</p>   |                 |          |   |           |  |
| C      |  |                 |          |   |           |  |